

令和7年度 学校関係者評価表

学校番号	104	学校名	浜松市立高等学校
------	-----	-----	----------

スクール・ミッション	政令指定都市浜松唯一の市立高校として、文武両道の教育方針のもと「学業」と「人間性」の両面においてバランスのとれた教育を実践する「規律ある進学校」を目指し、グローバルな視野をもつリーダーとして広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。
スクール・ポリシー	<p>〈グラデュエーション・ポリシー〉</p> <p>①文武両道の教育方針のもと、知・徳・体のバランスのとれた人間を育成する。 ②基礎的学力を十分に備え、自ら考え、判断し、行動できる人間を育成する。 ③グローバルな視野をもつリーダーとして、広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。</p>
	<p>〈カリキュラム・ポリシー〉</p> <p>①ICT教材の活用やAL型授業を通して、他者と協働して学び、思考し、判断し、表現する力と確かな学力を身に付ける。 ②総合的な探究の時間「浜市総合講座」を通して、地域社会との関わりから自ら課題を設定し、その解決能力を高め、自己の未来を切り拓く力を身に付ける。 ③生徒主体の生徒会活動や学校行事を通して、他者と協議しながら、自ら参画し、判断し、実現する、主体的に取り組む力を身に付ける。</p>
	<p>〈アドミッション・ポリシー〉</p> <p>①高い学習意欲を持って己を高め、自ら課題を見つけて、仲間と共に解決しようとする生徒 ②規律ある生活態度を身に付け、文武両道を目指して鍛錬に努めるとともに、学校生活のあらゆる場面に、自ら参加しようとする意欲を持つ生徒 ③地域から世界への視点をもち、国際社会においてリーダーとしての活躍を目指す生徒</p>

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

今年度の取組(目標具現化の柱 スクールポリシー)	総合評価	関係者評価
<p>ア 校訓「誠・愛・節」のもと、規律、責任、品位ある生活態度を定着させる。</p> <p>イ 知識・技能のほか、学ぶ意欲や自らで課題を見つけ課題を解決できる確かな学力及び情報活用能力を育成する。</p> <p>ウ 家庭や地域社会等と連携して「社会に開かれた教育課程」を実現し、社会に貢献できるリーダーとしての資質・能力を育成する。</p> <p>エ キャリア教育を推進し、高い志のもと進路を確実に実現する力を育成する。</p> <p>オ 安心・安全な教育環境を整備する。</p> <p>カ ICT化及び業務改善を推進し、研修の充実により教職員の資質能力・学校組織力の向上を図る。</p>	<p>「学校生活に満足している」について生徒・保護者ともに9割以上が「当てはまる」「大体当てはまる」との回答を得た。その他の項目については、生徒は概ね9割以上、保護者は概ね7～8割以上の満足度を示している。今後は、以下の「成果と課題」に取り組むとともに、学校はこれまで以上に社会に開かれた教育課程を実現し、生徒はあらゆる活動において、主体性、多様性、協働性をもって課題に取り組むことを目指す。</p>	B

NO	取組手段	成果目標	成果と課題	関係者評価
ア	<p>・「校門一礼」や挨拶の励行 ・正しい服装・言葉遣い指導 ・日常の交通安全指導、携帯安全教室・サイクルマナー教室の実施による事故やトラブルの未然防止</p>	<p>・「挨拶や言葉遣いはしっかりできている」「生徒の頭髪や服装はきちんとしている」等と答える生徒の肯定的自己評価を100%に近づける。 ・交通事故発生前年比10%減</p>	<p>初期指導や学年集会などで、適切な身だしなみについて呼びかけをし、服装が大きく崩れることはなかった。また、教員の指導により「挨拶や言葉遣いはしっかりできている」と答える生徒は97.7%となり、多くの生徒が前向きに落ち着いた生活を送れている。しかし、学年が上がるにつれ、一部の生徒で頭髪や服装面の規律の乱れが見られる。残念ながら交通事故件数は増加してしまった。(R6:11件→R7:16件)</p>	B
	<p>・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用する。 ・主体的な家庭学習の定着を図る。</p>	<p>・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用していると答える生徒90%以上</p>	<p>「進路ダイアリー」「進路資料」を活用していると答えている生徒は70.0%であった。「進路ダイアリー」の使用方法や頻度は担任・副担任に任されている部分が多く、もっと職員間で共通認識が必要であった。学習計画や家庭学習時間の確認など、活用方法や目的をはっきりさせ、生徒び活用を促したい。さらに生徒のよりよい進路選択に繋げるための効果的な活用方法を考えたい。</p>	C

	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に清掃に取り組むための支援・働きかけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「清掃などを通して校内をきれいに保とうと心掛けています」と答える生徒80%以上 	<p>「できている」と答えた生徒は97.8%であった。多くの生徒は清掃をはじめ校内美化に取り組んでいるが、できない生徒への主体性を育む指導が必要となる。さらに美化意識を高めるための方策が必要である。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> 各学年において初期・中期指導を実施し、勉強と部活動時間のバランス・心身の健康管理のとれた規則正しい生活習慣を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会を毎学期実施。 運動部指導会、文化部指導会を年間2回以上 「原則部活動時間19時まで」を徹底する。 定期試験一週間前までの特別許可以外の部活動禁止を徹底する。 	<p>学年集会を定期テストや学期の終了時に行うことで、学年全体への統一した指導ができた。</p> <p>部活動の活動時間に関しては、概ね目標を達成でき、日頃の生活習慣や学習時間の確立を促す指導がされている。</p> <p>定期テスト1週間前には、図書館開放を18:50まで延長しており、各学年とも利用している生徒がいるので、次年度も継続する予定である。</p>	A
イ	<ul style="list-style-type: none"> きめ細やかな学習指導の実践 課題解決する力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業では学力を伸ばしてくれる」と答える生徒90%以上 	<p>ICT機器の活用や討論型の授業など、教科の特性を生かした授業が展開されており、今後は校内でさらに普及することにより、生徒の学力向上を図る。また、生徒の思考力・判断力・表現力、主体性を育む授業の実践事例等を中心に教員研修や教科内研修等を実施していく。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導を推進し、学力伸長を図る。 新しい大学入試に対応した指導の実施(授業・検定・進路課外等) 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路指導が適切に行われている」と答える生徒90%以上 平日補習、土曜補習、夏休み補習の講座を充実させる。 	<p>進路指導が適切に行われていると答えた生徒は94.3%であった。担任による面談、総合探究の時間の活用や外部講師による講話などが効果的に行われた。</p> <p>進学補習については、参加希望の生徒を募り、各教科の実態に合わせて実施することができた。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> グローバル人材の育成 国際理解教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 英語によるパフォーマンステストを充実させ、コミュニケーション能力の向上を図る。年間8回程度実施し、「主体的に取り組んでいる、運用能力の向上を実感している」と答える生徒70%以上 	<p>英語の運用能力向上のため、数年前のより英語によるパフォーマンステストの充実を図っている。</p> <p>ミニディベートやライティング等を実施し、80%以上の生徒が運用能力の向上を実感している様子である。なお、今年度は、海外語学研修や留学生の受け入れに実施はなかった。</p>	B
	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動を推進し、思考力・判断力・表現力を身につける。 将来に必要な知識・教養を獲得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書便りの発行の充実 「朝読書」の主体的な実施 「図書室の蔵書は充実している」と答える生徒85%以上 	<p>朝読書の時間には、生徒自身が用意した本だけでなく、図書室の蔵書から配置されている学級文庫を利用する生徒も多く、充実した読書体験に繋げている。また、「朝読書」が速やかに開始できるよう、当番の教員が教室を見回す等の指導を行った。</p>	B
	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善を推進する。 観点別評価の改善を進める。 ICT機器を使用した授業の研究を推進する。 主体的・対話的で深い学びの授業・ICT機器活用授業の研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開一人年間1回以上、授業参観3回以上。 観点別評価に係る改善の推進。 生徒による授業評価2回実施。 市教委・県教委の事業を利用した研修・授業検討会の実施 外部の研修講座等への参加の呼びかけ 	<p>授業担当教員の全員が授業公開を行った。3回以上の参観については、授業担当教員の90%が実施した。生徒への授業評価は全教科が2回実施し、各教科にて各学期のアンケート結果分析を行った。</p> <p>市教委による研究授業訪問、県教委による研究授業訪問に加え、都市立高校合同研修会を実施した。また、他校での授業公開、講座等への参加の呼びかけも積極的に行った。</p> <p>教育課程検討委員会では、全教科主任が定期的に集まり、各教科における観点別評価による評価方法や評価規準の在り方について意見交換をした。授業改善や課題を中心に、校内全体や各教科内で情報を共有し、専門的な知識を深めることができた。</p>	A

ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・進学校としての部活動の充実 ・社会貢献活動を推進し、人権意識を高め、思いやりある豊かな心を育む。 ・生徒が他者・外部と関わら合うことを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活動は充実している」と答える生徒90%以上 ・県大会以上出場20部活以上 ・年間で1回以上社会貢献活動(地域貢献活動・協働・連携等 自治会や同窓会との連携含む)を行う団体(部活動・委員会等)20以上 	<p>部活動の充実度は94.3%であり、全部活動が県大会へ出場することができた。また、全国大会出場も昨年度より増加した。</p> <p>生徒会を中心とした社会貢献活動も年々参加者を増やし、多くの団体が参加し行うことができた。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動、学級活動、行事、部活動を通じ、社会で必要とされる資質能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事が充実している」と答える生徒90%以上 	<p>3年生は90%を超えたが、1,2年生では90%弱と学校行事の充実度が下がってしまった(全校生徒では88.7%)。行事では縦割り活動が多く、3年生の熱量が他学年にも伝播するような行事づくり、他学年との関わり方も考えていきたい。</p>	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動及び学校の見える化を進める。 ・広報誌「いちりつプレス」やHPブログ等を活用し積極的かつタイムリーに情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事掲載20回以上 ・「いちりつプレス」年2回発行 ・ブログの投稿が各部活動2回以上。ブログアクセス数毎月250回以上 	<p>ブログ、ホームページ、いちりつプレスではタイムリーにきめ細やかな情報発信ができ、学校の様子を詳細に広報することができた。</p> <p>図書だより年間発行数30回以上(教員・司書・生徒発信の合計)となった。</p>	A
エ	<ul style="list-style-type: none"> ・体系的な進路行事の充実 ・総合的な探究の時間の充実 ・SDGsやESD(持続可能な開発のための教育)の意識や推進 ・郷土愛、職業観の醸成 ・主権者教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の体系化・カリキュラムマネジメントの推進 ・大学模擬授業1回、職業研究会、政策提言(ブレ政策提言を含む。)の実施 	<p>進路講演会、大学模擬授業及び名古屋大学見学会等を実施し、進路意識を高めることができた。</p> <p>総合探究の時間に修学旅行の計画を効率よく立て、各コースごとに充実した研修ができた。</p> <p>市への政策提言の実施方法を改良した。同じ興味関心をもつ生徒で探究グループを形成し、その分野の知識や実務の市役所職員を講師に招いて、支援を受けながら探究を進めた。また、市議会議員との座談会を行うグループもあり、政策提言がより深い探究活動となった。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の意義を理解し、受験する。 ・個別試験対策(論述等の指導)の充実により、難関大学挑戦の生徒を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験受験後に復習していると答える生徒90%以上。 ・入学時の志望進路の実現率60%以上。 	<p>模擬試験に真剣に取り組んではいるが、模擬試験受験後に復習していると答えた生徒は71.2%であった。復習の重要性と復習方法を具体的に生徒に示す必要がある。</p> <p>模擬試験の結果を丁寧に分析し、生徒の苦手分野を復習させたり、面談の材料としたりしている。</p>	B
オ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校事故の防止、特に熱中症に対する教職員及び生徒の注意意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症講座、救命救急講習の実施 ・5～10月熱中症計で計測し、指標に留意した活動を行う。 	<p>熱中症講座を1年生全員及び新任教職員を対象に実施した。熱中症計での計測は今後も継続していく。特に行事や部活動においては、その運用の仕方を工夫し、より生徒の安全安心を考えた対応をしていく。</p> <p>救命救急講習等を通して、学校事故の防止や対応などへの注意意識を高める取り組みを実施した。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育・安全教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルや危機管理マニュアルを再点検し、改訂する。 ・学校安全計画の策定及び安全教育の実施 ・防災訓練・防災教育年3回以上。 ・防災備品の確認、再点検 	<p>市の防災マニュアルに合わせ、今年度の校内防災マニュアルを作成し、周知した。年3回の避難訓練実施の際には、備蓄倉庫の点検、備蓄品の確認、また、市危機管理課による災害についての講話を行い、防災意識の高揚を図った。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・個別相談などを通して生徒の心身の状態を把握する。 ・生徒の情報を共有し、SCとも連携して相談体制を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1分間カウンセリングを1年生9～10月に実施 ・個別面談年間2回以上。 ・正副担任・学年主任等との情報共有 ・「教師は悩みや相談に親身になってくれる」と答える生徒90%以上 ・保護者の相談対応の満足度を前年より上げる。 	<p>「教師は悩みや相談に親身になってくれる」と答えた生徒は91.1%、相談対応の保護者満足度は73.2%であった。今後も生徒個々の必要に応じて適宜面談を行い、生徒の困り感に対応していく。</p> <p>1分間カウンセリングの結果を、学年部や担任に丁寧に伝えて、その後の生徒への指導に役立てることができた。</p> <p>今年度からスクール・カウンセラー(SC)が新しくなった。SCの利用は少し増え、情報共有も適切に行われている。</p>	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・校内施設・設備の点検 ・学習環境及び設備等の充実 ・学校内外の美化・清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検学期に1回以上、不備な個所の改善。 ・設備の更新を進める。 ・行事の前後で環境整備委員会を中心とした美化活動の実施 ・清掃用具点検年間3回以上 	<p>環境整備委員による美化活動は例年どおり行い、行事もきれいな環境で実施できた。清掃用具も定期的な呼びかけや確認をしながら適切に補充できている。</p> <p>生徒用ロッカーについては、年度当初に更新され、大きなトラブルもなく活用できている。教室環境の整備については、エアコンが更新され室温管理が向上した。一方で、生徒用の机と椅子の更新については、年間数クラスずつ程度にとどまり大変時間を要している。</p>	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画における行事等の配置や内容を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年・分掌、課長主任会等で意見の集約を図る。 ・教職員の本来業務(生徒に向き合う・指導の準備等)の時間確保のため、学校業務の整理・縮減を進め、出退勤時間の適正化をする。 	<p>年間行事と授業時間確保の調整は概ね行うことができた。今後は現行教育課程における目標の達成のため、生徒の主体的な学習活動時間の確保と職員の働き方改革の両方を鑑み、また温暖化対策など取り巻く環境の変化に応じて適切な見直しをさらに進めていく必要がある。</p> <p>毎週、生徒課会議を開催し、問題点の共有や生徒に関する情報交換をすることができた。時代の変化に対応して校則の見直しをしてきたが、今年度は生徒会が中心となって実現させることができた。今後も長年築いてきた伝統とのバランスを考えながら、時代に即した校則を考えていきたい。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に部活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動計画表の作成 ・各部活動月平均8日以上休養日の設定(年間を通じて) ・活動実績の作成 	<p>毎月の部活動計画表の作成及びその計画的実施ができた。休養日も大会日程に合わせ、年間を通してガイドラインを守ることができた。中学校での部活動地域移行が進むにつれ、各部の活動時間や活動内容について、生徒間や保護者間の認識の差が生じやすくなり、今後ますます大きな課題になる可能性がある。</p>	A
力	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の一元化の推進 ・教育課題等を共有し、組織的に解決していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共有フォルダを整理する。 ・共有ツールを活用し、課長主任会・課会・学年会・各種委員会等を活性化し、着実に問題解決をしていく。 	<p>PCの更新後、教職員に呼びかけ、フォルダの整理を行っているところである。使いやすく安全なフォルダ構成も引き続き検討しており、教職員に周知しながら進めていく。</p> <p>校内で幾つかのワーキング・グループ(WG)を暫定的に発足し、各種委員会等では決め難いことを迅速に解決することができた。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員、保護者アンケート等の評価及び意見等を、学校づくりに活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活に満足している」と答える生徒90%以上。 	<p>「当てはまる」「大体当てはまる」と答えた生徒の割合は95.8%(昨年度92.8%)であった。保護者は91.9%(昨年度91.9%同じ値)であった。</p> <p>生徒及び保護者への学校評価アンケートにおいていただいた御意見を参考にし、実施を検討していく。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一台端末活用に向けて、校内ルールの見直しや研修を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、学級活動、学校生活において活用ルールを検討する。 	<p>生徒一人一台端末の活用は、学校生活のあらゆる場面で進んでいるように感じる。引き続き、授業をはじめ、総合探究、特別活動等での活用を考える。</p> <p>生成AIを活用した授業の実践のためにキックオフガイドを作成した。今後、教職員に具体的な実践例の紹介や研修を実施していく。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な業務運用 ・ペーパーレス化の推進 ・会計等運用方法の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な業務計画の推進 ・会議資料は原則ペーパーレス化していく。 ・成績管理システムの確実な運用を図る。 ・学校予算運用の効率化 	<p>成績処理システムのセットアップを適切に行うことができた。</p> <p>設備の修繕など学校予算を適切に執行した。</p>	A